

にぎわいと活力のある、 個性と魅力あふれるまちづくり



ふくち☆リッチジェラート

1. “農”の力を伸ばすまちづくり

(1) 農林業を核とした魅力づくりと地域活性化

農 林業の実態は、従事者の高齢化等による後継者不足をはじめ、消費減退、価格の低迷など、さまざまな問題を抱えています。福智町では、耕地面積が田川市郡で最も広いという特徴を生かし、農林業の支援を行ってきましたが、担い手の確保が急務となっています。今後は農林業を核とした魅力づくりを行い、農林業後継者の育成、確保等を図るとともに、まちの活性化へとつなげます。

※ 集落営農組織 ▶ 集落単位で農家が各自の農地を持ち寄り、共同で農機具を所有したり、農作業を行ったりする組織。任意組織のほか、各農家の利益増進が目的の「農事組合法人」、完全に営利目的の「株式会社」などの形態がある。

※ 認定農業者 ▶ 農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者・農業生産法人のこと。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 補助金を活用した新規就農者の支援【農政】
- ② 農業設備投資および農業機械導入による集落営農組織*の経営支援【農政】
- ③ 法人化支援による集落営農組織の法人化(3法人)【農政】
- ④ 補助事業を活用した森林保全活動【農政】
- ⑤ 農業水路、溜池の取水施設および農道、井堰等農業用施設の整備【農政】

2 現在の問題点

- ① 人口減少と農業者の高齢化に伴う労働力不足【農政】
- ② 新規就農の厳しい現状と担い手の育成不足【農政】
- ③ 集落営農組織の法人化における担い手不足等の隘路打開【農政】
- ④ 地元山林に関する有識者の減少および地元団体の高齢化【農政】
- ⑤ 山林相続の未登記および管理者不在等の管理問題【農政】
- ⑥ 農地条件との適合に関する調整【農政】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 次代を担う新規農業者の育成【農政】
- ② 集落営農組織および認定農業者*への経営力向上支援【農政】
- ③ 集落営農組織への法人化支援【農政】
- ④ 林業後継者の育成【農政】
- ⑤ 土地基盤整備事業の促進【農政】



福智山麓の田園風景

1. “農”の力を伸ばすまちづくり

(2) 農地荒廃対策の推進

長引く農作物の価格の低迷や農林業従事者の高齢化などに伴い、農林業経営の転換期が迫っており、使われなくなった農地の荒廃がますます進んでいくことが予想されます。福智町でも農林業従事者の高齢化は深刻な課題であり、有効な農地の荒廃対策や農作物の被害対策が急務となっています。今後も次世代の農林業の担い手の育成を進めるとともに、農地の保全に取り組んでいきます。

※ 輪作体系▶ 同一の耕地に一定年限をおいて異なる種類の作物を交代に繰り返し栽培する輪作の体系。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 水系を単位としたブロックによる輪作体系*の確立【農政】
- ② 地域の農地維持保全活動に対する補助事業の活用【農政】
- ③ 農地の有効利用および農地転用相談への対応【農政】
- ④ 農業経営リタイアに関する相談や中間管理機構を通じた耕作放棄地への対策【農政】
- ⑤ 農業水路、溜池の取水施設および農道、井堰等農業用施設の整備【農政】
- ⑥ 鳥獣害被害対策の実施【農政】

2 現在の問題点

- ① 就農者の高齢化と担い手不足により増加傾向にある農業経営リタイア【農政】
- ② 条件不利地における利用権設定や売買等の厳しい状況【農政】
- ③ 自作農地以外の営農規模拡大への限界と担い手不足による荒廃農地の増加【農政】
- ④ 空き家等の増加に伴う住宅関連への農地転用の減少および荒廃農地の増加【農政】
- ⑤ 町単独ではない広域的取り組みによる鳥獣害被害対策の実現【農政】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 担い手に対する農地集積化の促進【農政】
- ② 荒廃農地対策および農地維持保全活動への支援【農政】
- ③ 鳥獣害被害対策(電気柵・金網柵等設置補助、個体数調整捕獲事業等)の推進【農政】

(3) 農産物のブランド化と需要の拡大

全国的な食の安心・安全に対する関心の高まりを受けて、地産地消のニーズは高まっていく傾向にあります。福智町でも農産物のブランド化を推進していますが、さらに新たなブランド製品の開発が求められています。今後も6次産業化の推進や園芸農家の担い手育成等に努め、販路拡大による需要の拡大を目指すとともに、二毛作助成等を活用した米・麦・大豆の生産の活性化を図ります。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 補助事業を活用した園芸作物の生産強化支援【農政】

2 現在の問題点

- ① 園芸作物の効果的な活性化策【農政】
- ② 農産物のブランド化戦略で求められる人材と生産者の確保【農政】
- ③ 園芸作物後継者の町内転入の推進【農政】
- ④ 中長期的に先を見据えた担い手不足の打開策【農政】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 園芸農家担い手の育成【農政】
- ② 補助事業等を活用した施設園芸の支援【農政】
- ③ 農産物ブランド化の支援【農政】
- ④ 6次産業化の推進【農政】



福岡ブランドのいちじく、とよみつひめ



福智が誇るブランド梨、赤池梨

2. “ならでは”の個性が光る地域ブランド化

(1) ふるさと納税によるタウンプロモーションと財源活用の強化

本町のふるさと納税は、絶大な経済波及効果をもたらし、今や貴重な財源確保のひとつとなっています。福智町では、ふるさと納税の本格推進を図り、10億円以上の寄付額拡大につなげるなど、業者委託しない運営や返礼品開発、創意工夫による取り組みにより、メディアや全国から注目されてきました。今後もふるさと納税によるタウンプロモーションと財源活用のさらなる強化を図ります。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 福智町ふるさと納税制度の本格推進(平成26年度210万円、21件の寄付実績)【まちづくり】
- ② 36生産者との交渉および約350種の返礼品調整【まちづくり】
- ③ ポイント制度の確立、特設サイトの構築、カタログの作成【まちづくり】
- ④ 平成27年度11億6千万円、5万件を超える寄付実績【まちづくり】
- ⑤ 平成28年度13億7千万円、6万6千件を超える寄付実績【まちづくり】
- ⑥ 地域ブランド化と返礼品のブランド化および町と特産品のPR推進【まちづくり】

2 現在の問題点

- ① 自治体間競争の加速化【まちづくり】
- ② 寄付金の使途や活用施策によって寄付先が選ばれる傾向への対応【まちづくり】
- ③ さらなる創意工夫による返礼品の魅力向上【まちづくり】
- ④ 寄付者のニーズや市場への即応【まちづくり】
- ⑤ 新規生産者の発掘と返礼品マンネリ化の解消【まちづくり】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 地域ブランド化を高める「福智町ふるさと納税」の強化推進【まちづくり】



福岡ブランドのイチゴ、あまおう

(2) 特産品開発と展開の推進

本町では、福智名物「方城すいとん」の発掘・定着化や「ふくち☆リッチジェラート」の開発展開と6次産業化を推進してきました。また「福智★リッチビール」など、ふるさと納税の返礼品としての商品開発も連動させ、成果を収めてきました。さらに、福智町名産品通販サイト「福天小槌」を立ち上げ、製品のPRと生産者の活性化に寄与しています。今後も特産品を活用しつつ、新たな特産品開発にも挑戦し、さらなる町活性化につなげます。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 福智名物「方城すいとん」の定着化(町内10店舗販売・学校給食化等)【まちづくり】
- ② ふるさと納税と連動した特産品開発の推進【まちづくり】
- ③ 研修会等による生産者育成および商品開発のサポート【まちづくり】
- ④ 福智町名産品通販サイト「福天小槌」の立ち上げと稼働【まちづくり】
- ⑤ 「ふくち☆リッチジェラート」の開発および展開と6次産業化の推進【まちづくり】
- ⑥ 「福智★リッチビール」の開発および展開と6次産業化の推進【まちづくり】
- ⑦ 上野焼の新たなブランドラインの創出【まちづくり】

2 現在の問題点

- ① 新商品の認知度不足と品種ごとの経済効果の格差【まちづくり】
- ② 特産品の生産量と担い手の不足【まちづくり】
- ③ 特産品のPR活動や商談等営業活動の強化【まちづくり】
- ④ 福智町名産品通販サイト「福天小槌」の売上げの低迷と認知度不足【まちづくり】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① ふるさと納税と連動した付加価値を高める特産品開発および展開の強化【まちづくり】
- ② 民間事業者と連携した特産品展開およびPR【まちづくり】
- ③ 町内生産者の育成および活動展開のサポート【まちづくり】
- ④ 伝統的工芸品産地の活性化【まちづくり】
- ⑤ 地域おこし協力隊*の活用【まちづくり】



新開発の特産品「福智リッチ★ビール」

※ 地域おこし協力隊
▶ 都市部の若者が地方自治体の募集に応じて委嘱を受け、国から生活費等の支援を受けながら、おおむね1年以上3年以下の期間、地方に移り住み、住民の生活支援や地域の活性化などに取り組む活動。

2. “ならでは”の個性が光る地域ブランド化

FUKUCHI MASTER PLAN

(3) シンボルイベントの推進

シンボルイベントは、地域の資源を生かし、地域の総合力を結集して取り組むことが望まれます。福智町のイベントの中でも上野焼の「器」と河村光陽の「音楽」、特産品の「スイーツ」の魅力を融合させた「福智スイーツ大茶会」は、毎年町の人口を上回る来場者数を記録。九州最大規模のスイーツイベント、町のシンボルイベントとして、回を重ねるごとに発展してきました。今後もまちのシンボルイベントを核とした推進を図り、魅力の発信や交流人口の増加、まち全体のにぎわいづくりの拡大を目指します。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① フクチ・ファインド・フェスティバル「福智スイーツ大茶会」の企画実施とシンボルイベント化【まちづくり】
- ② 上野焼秋の窯開きと上野焼協同組合との連携【まちづくり】
- ③ へいちくフェスタと平成筑豊鉄道および沿線市町村との連携【まちづくり】
- ④ シンボルイベントでの開発特産品の発表披露【まちづくり】
- ⑤ 食と器と音楽による地域資源の魅力の融合と山笠競演会との連携【まちづくり】
- ⑥ クーポンやグルメストリートなど地元温泉施設や飲食店との連携【まちづくり】

2 現在の問題点

- ① 事業継続や拡大に伴う内容や体制の充実【まちづくり】
- ② 経済効果の地域内波及および出店舗の売上格差【まちづくり】
- ③ 駐車場不足と交通渋滞への対応（5年連続2日間で3万人以上を集客）【まちづくり】
- ④ 参加希望店舗の増加と会場のキャパシティ不足【まちづくり】
- ⑤ イベント内容のマンネリ化の解消【まちづくり】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 町のシンボルイベントとして地域ブランド化を推進する「福智スイーツ大茶会」の展開【まちづくり】



3. 資源を磨き上げ、おもてなしの心あふれる観光のまちづくり

FUKUCHI MASTER PLAN

(1) 観光のまちづくりの基盤整備

魅力ある観光地づくりを進めるためには、観光基盤の整備が不可欠となります。福智町では、筑豊エリアや田川広域による観光推進をはじめ、関係団体等との連携を図っており、観光客の受け入れ基盤の確立や観光ガイド組織の自主運営化を目標としています。今後は観光ガイドのさらなる育成や受け入れの強化等をすすめ、観光基盤の整備に努めます。

※グリーンツーリズム▶農山漁村を訪問して、その土地の自然や文化、人々との交流をありのままに楽しむ余暇形態の観光スタイル。

※インバウンド▶外国人の訪日旅行、または訪日旅行者のこと。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 民間企業や旅行会社との連携強化【まちづくり】
- ② 福智町観光ガイドの育成【まちづくり】
- ③ 田川まるごと博物館や田川広域観光協会など県や広域地域との連携【まちづくり】
- ④ 民泊によるグリーンツーリズム*の環境整備【まちづくり】

2 現在の問題点

- ① 観光客の受け入れ基盤が脆弱【まちづくり】
- ② 誘客効果のある施設が少ないことによる地域経済への波及不足【まちづくり】
- ③ 経営者の事情等もあり民泊によるグリーンツーリズムの推進は困難【まちづくり】
- ④ 宿泊施設の誘致と市街地からのアクセスの改善【まちづくり】
- ⑤ 広域観光の効果の低迷【まちづくり】
- ⑥ 観光ガイド組織の自主運営化に向けた育成【まちづくり】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 県と連携したインバウンド*受け入れの推進【まちづくり】
- ② 既存宿泊施設の効率化と民営宿泊施設の誘致【まちづくり】
- ③ 観光客受け入れ基盤の強化【まちづくり】
- ④ 観光ガイド組織の自主運営化に向けた育成【まちづくり】



3. 資源を磨き上げ、おもてなしの心あふれる観光のまちづくり

(2) 文化や自然を活かした観光資源の磨き上げ

観光振興による交流人口の拡大は、地域経済活性化の有効な手段の一つであり、今まで気づかなかった地域資源の保全、再生、価値の向上にもつながります。福智町ではこれまで、新たな観光資源の発掘と観光スポット化、各観光スポットの結びつけとPRを推進し、民間旅行会社による観光ツアーや平成筑豊鉄道の観光列車を実現させてきました。今後も福智町にしかない観光資源を磨き上げ、ターゲットエリアの拡大に努めます。

1 5年間で取り組んできたこと

- ① 民間旅行会社による観光ツアーの実施およびサポート【まちづくり】
- ② 観光スポットの結びつけとPRの推進【まちづくり】
- ③ 新たな観光資源の発掘と観光スポット化(熊谷無造窯・福智中宮参道等)【まちづくり】
- ④ 広域連携による民間観光ツアーの規模拡大およびサポート【まちづくり】
- ⑤ 平成筑豊鉄道を活用した広域連携による観光列車の実現【まちづくり】

2 現在の問題点

- ① 観光ツアーに伴う受入れ施設の不足【まちづくり】
- ② 定期的に実施できるツアー不足によるリピート客の未定着【まちづくり】
- ③ 福智町にしかない観光スポットのさらなる確立【まちづくり】
- ④ 上野焼の知名度や付加価値を飛躍的に高める取り組みの研究【まちづくり】
- ⑤ 観光における温泉施設の効果的な利活用【まちづくり】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 福智町にしかない観光スポットやプログラムのブラッシュアップ【まちづくり】
- ② 上野焼の中央進出および海外販路開拓の推進【まちづくり】
- ③ 上野焼の後継者育成支援【まちづくり】
- ④ 温泉施設の活用と活性化【まちづくり】
- ⑤ 平成筑豊鉄道と連携した観光促進【まちづくり】
- ⑥ 山笠競演会の観光PRの連携推進【まちづくり】



上野焼開祖屋敷跡、熊谷無造窯の紅葉

(3) 観光を通じたイメージの向上と定着の推進

観光ニーズの多様化と情報技術の進展により、観光情報の入手方法も飛躍的に拡大しています。福智町では、豊かな観光資源を通して福智町のイメージを向上させるとともに、福智町が「やきものの町」「童謡の町」であることを広く周知し、イメージ定着につなげてきました。今後も福智町の地域ブランド化のために関係機関と連携しながら、効果的な情報発信の仕組みを構築します。

1 5年間で取り組んできたこと

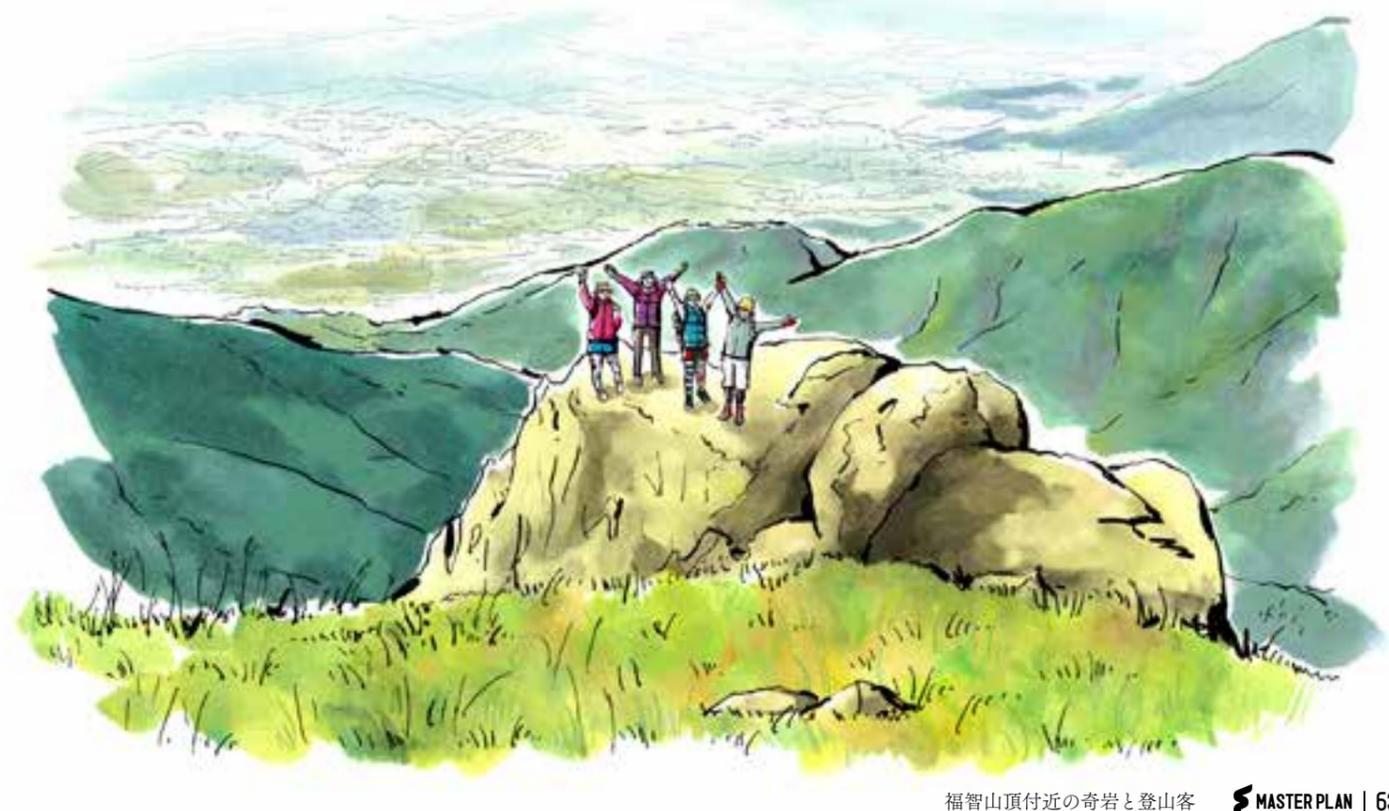
- ① 観光PRイベントへの出展やサポートおよびプロモーションの強化【まちづくり】
- ② 観光サイトの構築および観光サインの整備【まちづくり】
- ③ 観光ガイドブックや登山ガイドブックの作成【まちづくり】
- ④ 観光大使や観光アドバイザーとの連携【まちづくり】

2 現在の問題点

- ① 町や観光資源の知名度不足【まちづくり】
- ② 観光経営をマネジメントできる人材不足【まちづくり】
- ③ 「やきものの町」や「童謡の町」というイメージの定着不足【まちづくり】

3 今後5年間で取り組むこと

- ① 企業と連携したPR強化や共同イベントの実施【まちづくり】
- ② ブランドイメージの向上と歴史との結びつきの強化【まちづくり】
- ③ 観光経営に対しての人材強化【まちづくり】
- ④ 交流人口および関係人口の増加につながる取り組みの推進【まちづくり】



福智山頂付近の奇岩と登山客